

# 平成29年度 鈴峰中学校 校内研修

## 〔1〕研究主題

「生徒の自己効力感を育てるための指導の工夫」  
－わかる授業と互いにつながりあう取り組みを通して－

## 〔2〕主題設定の理由

### （1）鈴峰中学校のこれまでの研修内容

本校では、学校教育目標を「豊かな人間性とたくましい実践力を持つ生徒の育成」と定め、いろいろな教育活動の中であらゆる機会を利用して「生きる力」の育成を目指してきた。そして、文部科学省の研究指定や北勢地区人権・同和教育研究協議会の研究指定を受け、「確かな学力」の定着や「道徳性の向上」を図ってきた。

平成24年度以降、授業の流れの明確化を図るために、授業のねらいや授業計画を明示することを研修の柱とし、授業改善に取り組んできた。また、平成25年度から研修テーマを「生徒の自己効力感を育てる」こととし、2つの柱を立てることとした。1つ目は引き続き「わかりやすい授業」を目指し、授業改善に努めること、そして生徒にとって「わかりやすい授業」だったのかを確認する手立てを工夫することである。2つ目はすべての生徒を対象にした、教師による承認活動（よさ、がんばりを生徒に返す活動）を全校的に実践することである。

その結果、授業改善については、アンケート結果から生徒の学習意欲の向上がみられ、一定の成果を上げることができた。しかし、授業で学んだことをふり返る「ふり返り活動」については改善する必要があること、さらに、生徒承認については思ったほど改善が見られていないことが明らかとなった。

そこで平成26年度以降は、

①授業におけるめあての明示とふり返り活動の充実

②短期目標設定を導入した生徒承認活動

を念頭に置いて研修を進めてきた。

①については公開授業の取組を改善した。公開クラス以外は放課とし、全職員が授業参観できるようにした。また、事後研修も充実したものになるよう、事後検討会での討議の柱を定め、KJ法を取り入れた。また、年度当初に教科部会を持ち、めあての明示方法や、教科の特性に応じたふり返り活動の取り入れ方について検討した。

②については、各教室に「短期目標ボード」を設置し、生徒が認められたいと思っていることの把握に努め、生徒承認ファイルでのフィードバックに活かせるよう工夫した。また、授業での承認活動や生徒同士の承認活動にも取り組んだ。

## 〔2〕昨年度の反省および現状把握

2学期の鈴鹿市「安心して学べる学校を目指して」生徒アンケートの結果、「授業のねらいや、授業で何ができるようになればよいか理解できている」の項目は、肯定的意見が80.7%、「授業中、学習内容をふり返る活動をよく行っている」の項目は、肯定的意見が76.0%となった。この結果から、めあての明示とふり返り活動については、生徒に徐々に浸透してきたといえる。

また、「学校の先生は、わたしのよいところやがんばりを認めてくれる。」の項目は、肯定的意見が85.7%（市全体では83.4%）、「クラスの仲間は、わたしのよいところやがんばりを認めてくれる」の項目は、肯定的意見が81.8%（市全体では78.2%）となっており、教師からも生徒からも自分が認められていると感じている生徒が8割を超えている。

しかし、アンケート結果から、依然約2割の生徒が、自分が認められる機会が少ないと感じていることが明らかとなった。原因としては、すべての生徒に対して十分な承認活動が行えていないこと、生徒が認めてほしいと思っていることと教師の承認内容が合致していないこと、授業における承認活動が少ないことが挙げられる。もう一度承認活動の原点に立ち戻り、承認内容にこだわることよりも、まずは承認回数を増やしていくことが今後の課題である。

## 〔3〕研修領域

授業を中心とした、すべての教育活動

## 〔4〕仮説

「わかる授業」を展開することで生徒の自己効力感が高まり、授業に対する意識が向上し、結果として確かな学力が定着する。

また、「生徒承認活動」を通して、授業以外の活動でも主体的に行動できるようになり、周りに対して自分のことを、自信をもって表現する力が身につく。

## 〔5〕本年度の取り組み

今までの研修の流れおよび昨年度の反省をふまえて、今年度は引き続き「生徒の自己効力感を育てる」ことを目指していく。具体的な取り組みとして、1つ目は、生徒にとって「わかる授業」となるよう、引き続き授業改善に取り組むこと、2つ目は、授業を含めた学校生活全体での生徒承認活動に取り組むこと、3つ目は、キャリア教育の一環とした短期目標設定に取り組むこととする。

### (1) 「わかる授業」の実施

近年、授業におけるめあての明示とふり返り活動の重要性が指摘されている。これまでの研修の取り組みによって、授業のめあての明示やふり返り活動を行うことは、生徒に浸透してきている。そこで本年度は、めあての明示やふり返り活動をおこなうことを基本とし、さらにそれを生徒の主体的な学びにつなげていくこととする。

「わかる授業」とは何か。本校では、「生徒が授業内容をわかること」、あるいは「今何をやっているかがわかること」と定義する。「わかる授業」を実施することで、生徒は自分にもできるという思いが持てるようになり、その積み重ねにより、もっと学びたいという学習意欲につながると考える。そして、それが生徒の主体的な学びにつながると考える。

そのために、まずは授業の最初にめあてを明示する必要がある。そして、そのめあてが授業で教師がわからせたいと考えているポイントであり、生徒にとって「ここがわかった」とふり返ることができる内容になっていることが大切である。そして、ふり返り活動でめあてについてどこまでわかったかを自己評価することで、生徒が授業内容をわかったと実感できるように、授業構成を工夫することが大切である。

### (2) 教師による承認活動および生徒同士の承認活動

昨年同様に全ての生徒を対象にした、教師による承認活動（よさ、がんばりを生徒に返す活動）を、全校的に実践する。授業を含め、あらゆる場面で生徒を承認し、「生徒承認ファイル」にデータを蓄積し、定期的に生徒に返していくことで、生徒同士の承認活動の例示としていく。加えて本年度も生徒の短期個人目標のふり返りや学校行事などを利用し、生徒同士の承認活動の機会も多く設定していく。

### (3) キャリア教育の一環としての取り組み

生徒に将来の展望を持たせるため、本年度も長期目標や短期目標を設定させる。そうすることで、自分の立てた目標を達成するために粘り強く取り組むことのできる力や、目標を達成するために自分に必要な力は何かを考えることができるようになると思う。さらに、成功体験の積み重ねにより、自分もやればできるという思いを持つことができると思う。

## 〔6〕 具体的取り組み

### （1） 公開授業の実施

今年度も教員全員が公開授業をおこなう。その際、公開クラスでないクラスは下校させ、教員が参観に集中できるようにする。公開授業では、ポイントを「めあてとふり返り活動が連動していたか」と「生徒が主体的に学べる授業となっていたか」とし、事後検討会で議論することとする。

本年度は、「生徒の主体的な学び」となる授業の実施に取り組む初年度となるため、教科ごとにどのように取り入れていくかを検討する年度とする。

授業者は、めあての内容と明示方法、教科としての「生徒の主体的な学び」の捉え方、ふり返り活動の取り入れ方を必ず指導案に明記する。

### （2） 生徒承認ファイルの活用

授業を含めたすべての教育活動において、生徒のよかった点について意識的に声をかけていくことを前提とし、さらにそれを個人レベルでデータ化していく。学年ごとの“生徒承認ファイル”に、承認活動を随時入力していき、生徒には個表印刷して承認内容をタイムリーに返ししていくことにする。入力することにより、生徒一人ひとりの承認回数が簡単にチェックできるので、未承認の生徒については学年会などで話題にし、すべての生徒のよかった点が入力できるようにする。また、生徒からの情報もデータ化し、教師だけでなく生徒からも承認されている実感をもたせる。

### （3） 生徒の短期個人目標の設定

生徒自身が自分の短期目標を設定し、それを教室に掲示する。掲示しておくことで、教師だけでなく他の生徒もその目標を見ることができ、目標達成の意識付けとしたい。設定した目標については、第2・4金曜日の帰りの会で達成できたかどうかをふり返り、それをもとに次週からの目標を設定する。ふり返る際は、自己評価だけではなく、他の生徒にも評価してもらい、互いに承認し合うことで、つながりあう活動にしていく。最初はどうも目標が立てられなくとも、目標を考える機会を増やすことで、自分にあった上手な目標設定ができるようになることが期待できる。

目標設定は昨年度同様に掲示板化しておき、掲示板ごと廊下に移動し、保護者会の時に見てもらえるようにするなど、家庭との連携にも役に立てる。

[ 7 ] 研修計画

月／日(曜)	内 容	学校行事等
4／12(水)	本年度の取組内容・計画 ・教科部会 めあての明示とふり返し活動について 生徒の主体的な学びを取り入れた授業の 持ち方について シラバスの確認	6:始業式 7:入学式 10:対面式・クラブ紹介 14:生徒会委員会 18:全国学力・学習状況調査 19,20:集団宿泊学習 21:進路説明会・PTA総会
5／17(水)	職員研修Ⅰ ・特別支援体制について	10:鈴教研班研修 8～12:家庭訪問 9～12:職業体験 10～12:修学旅行 26,27:中間テスト
6／7(水)	第1回公開授業	4:廃品回収 14:鈴教研班研修 28～30:期末テスト・生徒会委員会
7／ 上旬	生徒アンケート実施	14,18,19 :保護者会 20:終業式 26:鈴教研班研修
8／21(月)	職員研修Ⅱ ・生徒の主体的な学びを取り入れた授業について	
9／6(水)	職員研修Ⅲ ・道徳教育について	1:始業式 15:生徒会委員会 20:体育祭 21:後期生徒会選挙 27,28:中間テスト・生徒会委員会
10／18(水)	第2回公開授業	11:鈴教研班研修 28:体験講座 31:文化祭
11／15(水)	第3回公開授業	7:音楽会 8:鈴教研班研修 18:進路説明会 27～29:期末テスト・生徒会委員会

12／上旬	生徒アンケート実施	3: 廃品回収 6: 鈴教研班研修 18～20: 保護者会 22: 終業式
1／31(水)	本年度の取組の反省	9: 始業式 10: 鈴教研班研修 10～12: 3年生学年末テスト
2／ ( )	来年度の取組の計画	8, 9: 県立高校前期選抜 19, 20: 3年生保護者会 26～28: 1・2年学年末テスト
3／ 7(水)	来年度の取組の決定	9: 卒業式 12: 県立高校後期選抜 14: 生徒会役員選挙 20: 小中打合会 23: 修了式